

令和7年度 久留米市文化芸術振興審議会 第4回会議（要旨）

1 開催日時

令和8年2月25日（水）14時～15時50分

2 会場

石橋文化会館2階 研修室B

3 出席委員（名簿順）※9名

木藤委員（会長）、内野委員（副会長）、井原委員、入江委員、翁委員、片山委員、西依委員、矢次委員、前原委員

（欠席：日下部委員）

4 事務局 ※8名

市民文化部 文化芸術担当部長 田代部長

文化振興課 箔谷課長、中山課長補佐、古賀主査

文化財保護課 井上課長

久留米シティプラザ事業制作課 山田課長

久留米シティプラザ総務課 江越課長補佐

※他に、（公財）久留米文化振興会より1名同席

5 議事次第

1 開会

2 議題審議

（1）次期基本計画原案に対するパブリック・コメントの結果について

（2）教育委員会及び関係団体からの意見聴取結果について

（3）原案の修正状況及び次期基本計画における評価指標について

3 その他

4 閉会

議事録

1 開会

■ 事務局より、過半数の委員が出席しており、会議が成立していることを報告。

2 議題審議

（1）次期基本計画原案に対するパブリック・コメントの結果について

■ 事務局より資料1について説明。

（委員からの意見なし）

(2) 次期基本計画原案に対するパブリック・コメントの結果について

- 事務局より資料2について説明。

(委員からの意見なし)

(3) 原案の修正状況及び次期基本計画における評価指標について

- 事務局より資料3について、前回の会議後に修正した主な箇所について、章ごとに説明。

【第1章 久留米の文化】

○ 木藤会長

- ・ 1ページの6行目、「緋・瓦などの産業文化」の部分は削除した方が分かりやすいと思うがどうか。(委員了承)

○ 翁委員

- ・ 2ページの写真画像は、枠が見えるものとそうでないものがある。キャプションと作品の隙間や、「また、近年は、」の「、」の入れ方も統一した方がいいと思う。

● 事務局

- ・ レイアウトは最終的にまた調整したい。

【第2章 文化芸術政策を取り巻く状況】

○ 井原委員

- ・ 前回と比べて、見やすくなった。要点が並べられて、総括の(1)から(3)までの流れもいい。また、子どもと障害者のアンケートが別々になっているところも、前の計画では一緒になっていたの、子どもも、障害者も、それぞれ計画の中で大事にしている、という市の姿勢が見えていいと思う。よく工夫されたと思う。

○ 木藤会長

- ・ よくまとまった、というのが第一印象。ただ前計画では、総括目標があった。その目標に達しなかったことに、少し触れる必要があるのではないか。あまり前面に出すとよくないかもしれないが、せつかく前計画で作った目標なので、軽く数値に触れて、文章でも入れたらどうかと思うがどうか。

● 事務局

- ・ 前回の原案では、総括目標の達成度を「B評価」など出していたので、少し整理したいと思う。

【第3章 久留米市文化芸術振興基本計画（第4期）】

○ 木藤会長

- ・ 章タイトルに違和感があるが、どうか。「第3章 久留米市文化芸術振興基本計画（第4期）」とすると、その後の4章、5章も含む意味になると思う。「第3章 第4期基本計画の策定構想」などとしたらいいと思うが。「策定構想」がぴったりなのか分からないが。

● 事務局

- ・ 事務局で再度検討したい。

【第4章 計画の方向性】

● 事務局

- ・ 17 ページ「3 計画の体系」で、「2 育てる・支える」の「基本施策4 芸術家の発掘・顕彰と活動支援」のところで、「顕彰」を「表彰」に修正したいと思う。顕彰だと言葉が固く、市の芸術奨励賞のように、活動者の今後の活動の励みという意味では「表彰」の方がいいというご意見をいただいていたので。

(委員了承)

○ 木藤会長

- ・ 15 ページに「正二郎氏の寄贈理念が」とあるが、「正二郎氏」というのは、やや馴れ馴れしく聞こえないだろうか。「石橋正二郎氏」とフルネームで言うなどした方がいいのではないかと。

○ 内野副会長

- ・ 最初にフルネームでするので、「氏」はとってもいいのでは。あるいは、「石橋正二郎名誉市民」ではなく、「名誉市民石橋正二郎」などがいいのか。

○ 西依委員

- ・ 地元の自分たちは「正二郎さん」と親しみを込めて呼んでいたもので、あまり違和感がないが…。

○ 入江委員

- ・ 新聞では、著名人の人名は没後 30 年をめぐりに「氏」を省くルールがある。新聞では「石橋正二郎」と「氏」なしのフルネームで掲載することになる。

○ 井原委員

- ・ 全国の人が見る時には、フルネームの方が分かりやすいのでは。

○ 木藤会長

- ・ 氏をとって、フルネームで記載がいいのではないかと。事務局の方で、整理してもらいたい。

● 事務局

- ・ 18 ページにも「石橋正二郎記念館」の後に「正二郎氏の功績を」とあるので、フルネームか、それが続く場合は「同氏」などにするかなど検討したい。

○ 片江委員

- ・ 15 ページの計画の基本理念は大事なところなので、少し気になるのだが、冒頭で「条例の考え方と前基本計画の基本理念を引き継ぎ」とあり、3 段落目の「氏の崇高な理念を引き継ぎ」で「引き継ぎ」が続くので、表現方法を変えてはどうか。

○ 井原委員

- ・ 正二郎氏の言葉をもとにした基本理念が、2 期、3 期と脈々と受け継がれてきた、ということが分かるようになるといい。

○ 木藤会長

- ・ そのような記載が分かりやすい。理念の根本には正二郎氏の言葉があって、それをずっと引き継いでいる。正二郎氏のこの言葉が、この部分に引き継いでいる、など説明があると分かりやすいかもしれない。

● 事務局

- ・ この辺りも、再度検討させていただく。

【第5章 基本施策・主な取組】

■ 事務局より第5章について説明。

○ 木藤会長

- ・ 18 ページの「(2) 上質で多彩な美術に触れる」の取組で、「石橋財団の寄贈によりリニューアルされた石橋正二郎記念館」のところは、「寄贈」ではなく「支援」がいいのではないかと。

● 事務局

- ・ 「寄贈」の内容が「リニューアル工事の寄附」ということが分かりにくいというご意見をいただいたので、「支援」に修正したいと思う。

○ 内野副会長

- ・ 20 ページの「(2) 若者の文化芸術活動を応援する」の取組で、高校生美術公募展については、もう実施が決まったことなのか？

● 事務局

- ・ 中身については実施の方向で検討中。取組としてはやっていく。

○ 内野副会長

- ・ 久留米連合文化会では、「ジュニア青木繁展」を20年以上やってきた。それと内容がかぶることを市はどう考えているのか。ここで議論することではないかもしれないが。
- ・ 高校生美術公募展については、連合文化会が小・中・高校生を対象に「ジュニア青木繁展」を23年間やってきて、その高校生と対象がたぶってくる。現状を見ると、出品を指導する先生が大変になる。高文連では、一度受賞した作品は、他に出品できないなど、ルールがある。なので、対象がダブると、現場に影響が出る。そのあたりをどうするのかとと思っている。どういう広がりや作品を集めるのかなど、美術の教員をやっていた自分から見ると問題があると思う。

○ 木藤会長

- ・ この文章では、連合文化会の事業とは別の、独立したものでやるように見えるが、連携した事業にはならないのか？表現を変えるのも一つあると思うが。

● 事務局

- ・ 高校生美術公募展については、連合文化会の事業とは別に、実行委員会を立ち上げて内容を検討していくところ。記載は再度検討したい。

○ 入江委員

- ・ 前回の原案では、評価は第5章の最後にあったと思うが、第6章に移ったのか？

● 事務局

- ・ はい。第5章は「基本施策・主な取組」の内容だけで終わって、評価については6章の最後に整理した。第6章でまたご説明したい。

【第6章 計画の推進】

■ 事務局より第6章について、参考資料とあわせて説明。

- ・ 前回の会議で、計画全体を評価する指標は、上位計画である総合計画の指標と共通にしたい、とご説明していた。その上位計画の指標が設定されたので、この計画の最終ページに、指標の現状

値・目標値を入れた表で整理した。

- ・ また、令和 12 年度の目標値の考え方は、コロナ禍前以上の回復を目指し、かつ、ここ数年の回復状況を見て、目指すべき妥当な数値として設定されたもの。
- ・ さらに、前回の会議では、基本方針ごとに参考指標を設けることができないか検討したい、とお伝えしていた。どこまで細かい指標を計画に記載できるか悩んだが、やはりこれから様々な取組・事業を実施していく中で、それにあった指標を定めて見ていくべきと考えた。よって、ここでは 3 行の文章だけでまとめる形にさせていただいた。

○ 矢次委員

- ・ 「目指す成果」の「心豊かに～」を実現するための施策は、施策指標の「文化」「スポーツ」「歴史」が合わさって目指すとなっている。スポーツや歴史の個別計画はあるのか？例えば、歴史遺産に触れる機会について、それを増やしていくための取組はどういったことがあるのか。

● 事務局

- ・ スポーツでも個別計画があり、現在策定中。文化財でも「保存活用地域計画」があり、柱の 1 つとして、市民との協働により歴史遺産を守り、活用することとしている。直接的な取組はないが、計画に位置づけた取組の総和により、目標値を上げていこうとするもの。

○ 入江委員

- ・ 最後の 3 行のところで、施策ごとに個別の個別指標を設定するというのでいいのか。それは、5 年間の推移を見ていくものにするのか？

● 事務局

- ・ イメージとしては、これまで審議会において、計画の策定がない年は、主な事業の計画と実績を報告し、ご意見をもらってきていたように、令和 8 年から新たな計画をスタートする際に、基本方針に基づく事業を整理し、それにふさわしい指標を設定するなど検討したいと考えている。5 年間ずっと同じ指標を使うかなども、あわせて考えていきたい。

○ 井原委員

- ・ 今のような事務局の考えで賛成。やはり数字の取り扱いが難しいと思う。事業の目標についてどうだったかを、今後の審議会で報告してもらおうといい。今は 3 年以上変わらず続く事業も少ない。
- ・ また、この基本計画の「目指すまちの姿」が、正二郎氏の基本理念にもつながる「誰もが暮らしの中で～」というのが非常にいい。総合計画と合わせるという意味でも、この指標でいいのではないか。

【計画案全体について】

○ 木藤会長

- ・ それでは、原案の全体について、ほかにご意見はないか。

○ 翁委員

- ・ 全体的に、全角や半角、改行の位置やフォントが統一されていないところがあるので、整えた方がいいと思う。それと、文化協会からの意見に対する回答は、この計画の中にあるのだろうか。

● 事務局

- ・ 文化協会からいただいたご意見に対して、この計画にある取組で対応できているか、ということについては、高齢化や担い手不足などの社会全体の課題については、この計画だけでなく、総合計画でも取り組むべき課題だと考えている。ただ、この基本計画でもそうした課題は認識して記載しているので、文化芸術の取組を通して、それらの課題の解決につながっていくようにしていきたい。
- 木藤会長
 - ・ 文化団体とは口頭のやり取りで、それをまとめたのが資料2ということか？
- 事務局
 - ・ はい。対面の意見交換会を開催して、そこでいただいた主な意見を資料2にまとめている。
- 内野副会長
 - ・ 事業の具体的なことなどは、なかなか計画には書きにくいと思うが、「この課題に対して今年はこの施策をやります、その結果がこうなりました」と、審議会で報告できるようになるといい。難しいかもしれないが。
- 木藤会長
 - ・ こうした意見聴取をしたことに対して、何等かのレスポンスができるといい。意見をもらった団体に何等かの形で伝える機会があるといい。
 - ・ ところで、22 ページ「歴史遺産」の言葉が、分かりにくいのだが、高良山や櫛並木は歴史遺産なのだろうか。自然の景観も入るのか？
- 事務局
 - ・ 文化財保護法の改正があり、指定文化財よりも保護する範囲が広がった。それを「歴史遺産」と捉えている。高良山には多くの指定文化財があり、櫛並木は県指定の天然記念物である。植物であっても歴史遺産に含まれることはある。
- 片山委員
 - ・ 櫛は産業にもつながった？
- 事務局
 - ・ はい。蠟燭の原料に使われていた。
- 井原委員
 - ・ 表紙は4つの基本方針の色をピックアップしているが、「守る・つなぐ」のオレンジの丸の中の画像は、4ページにある「北野天満宮くんち」などでもいいのでは。久留米城の石垣は動きがないので、その方がいいように思う。久留米城のままでもいいが…。
- 事務局
 - ・ 他の画像を検討してみる。
- 片山委員
 - ・ 感想になるが、16ページの4つの方針のイメージ図はとてもいい。こういう説明図があると、そうかと思う。方針の循環が分かりやすく、うまくまとまっていると思う。

3 その他

- 事務局より、今後の策定スケジュールを説明。

- ・ 今回の委員からの意見をもとに事務局で原案を修正して委員にメールで確認いただき、最終案としての決定は、事務局と木藤会長との協議・調整に一任いただくことを提案。

(※委員承諾)

- ・ 3月中に、審議会を代表して、木藤会長より市長へ最終案を添付した「答申書」をご提出いただくことを説明。
- ・ 委員に対し、任期満了が3月末となること、これまでの計画策定のための審議に対する御礼。
- ・ 文化芸術担当部長より、本年度最後の審議会の閉会にあたり、御礼の挨拶。

4 閉会

以上